



平成29年6月30日
横浜市立笹野台小学校

心を開き、相手に近づいていく挨拶

副校長 岩間 洋

梅雨空の鬱陶しい天候が続いていますが、子供たちは今日も元気なあいさつをしながら登校してきています。

「あいさつ」の語源は、禅宗の「一挨拶」（いちあいっさつ）という言葉からきているそうです。今ではあいさつは「おはよう」「こんにちは」などの人と会ったときに交わす言葉ですが、もともとの言葉にはもう少し違った意味合いがあります。

「挨拶」は「押す」。積極的に突き進むこと。

「拶」は「迫る」。相手に切り込んでいくこと。

「挨拶」とは、禅宗の僧が禅問答をすることにより、相手の修行や悟りの深さを推し量るという意味で、真剣勝負のような厳しさが感じられます。まるで刀を持たず、心と心で勝負をするような感じですね。

「挨拶」には心を開くという意味があり、「拶」には相手に近づくという意味があるそうです。つまり、「挨拶」とは「心を開いて相手に近づく」という意味になります。

また、朝のあいさつ「おはようございます」は歌舞伎の世界から始まり、主役の役者が朝早くから楽屋入りをし、準備や稽古をしている様子を見ていた裏方さんたちが、「朝早くからご苦労様です。」という尊敬の念を込めて使われた言葉で、今でも芸能界では何時であっても「おはようございます」というあいさつが使われています。「こんにちは」「こんばんは」は「今日は、ご機嫌いかがですか。」「今晚は、よい月夜ですね。」などの略だと言われています。あいさつは相手を大事に思う気持ちから生まれたものであると考えられます。

本校の今年度の重点目標は、「自分からあいさつしよう」です。朝の登校時には6年生による「あいさつレンジャー」が登校してくる子供たちに積極的に挨拶をしたり、委員会による昇降口でのあいさつ運動が行われたりしています。私も、校門や昇降口に立ち、子供たちとあいさつを交わしています。「継続は力なり」のことわざに倣い、禅宗の「一挨拶」ほどの真剣勝負でなくても、気持ちの良い一日のスタートが迎えられるよう、全ての子供たちに身に付けてもらいたい基本的な生活習慣と考えています。以前に勤務していた学校で地域の方に教えられた「あいさつ」の心構えを紹介します。 **あ…あったときは い…いつも さ…さきに つ…つづけよう**

7月3（月）～7日（金）までに個人面談を行います。その折には、お子様のこれまでの学習・生活面を振り返り、頑張ったことはご家庭でも認め、励ましていただけたらと思います。

子どものちょっとしたよい点に気付き、それをさりげなく子供に伝えることはとても大切なことです。教師や親からほめられるという体験を多くもって育った子供は自分に自信をもち、何事にも積極的に取り組もうとする力をつけていきます。